



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第一二号）

立秋 りっしゅう

八月八日



## 宇治の会式

内宮前、宇治の人々の氏神さんは宇治神社です。 おおやまづみのかみ 大山祇神をはじめ多くの神をまつり、宇治今在家町の丸山に鎮座します。毎年八月二日には、宇治の会式えしきと呼ばれるお祭りがあります。

昼の部は、「子ども川曳」。進修しんしゅう小学校の四年生から六年生の有志二人ほどがリーダーとなり、幼児から小学校六年生までの子供たちが揃いのハッピー姿で神輿みこしをのせたソリを曳きます。以前は神輿を担いでいたのですが、そこは川曳かわびきの町。子どもたちにも早くからなじんでほしいと、ソリを曳くようになりました。

正午に神社でお祓いをすませ、ご神体を神輿にのせまずはおはらい町通りをソリで陸曳し、神宮道場横の築地の世古よこを通して、とうふやから五十鈴川に出ます。そこからはソリを川面に浮かべての川曳になります。胸あたりまで川につかりながら、二時間ほどかけて、ゆっくりと曳き、午後三時頃、烏帽子岩えびしに着くという行程です。

「暑いし、皆に見られるので緊張しながらも、一生懸命に曳く子どもの姿ははたで見えていて、けなげです。かえってこちらの方が、気分が高まります」とは、宇治四ヶ町で結成される会式実行委員会の東良二さん。

そして夜の部は、夕方六時から。神社下の駐車場は踊り屋台が組まれ、おまつり広場に様変わりします。食べ物模擬店やゲームコーナーが店開きし、川曳をした子どもたちが元気にゲームをしています。夏の太陽が落ちる七時頃からは、納涼踊りが始まって、浴衣姿の踊りの輪ができます。

屋台の上では、宇治を盛り上げている団体のアピールや出し物も。去年は中学生によるAKBのモノマネがありました。今年も東さんらが企画を練っているそうです。

宇治の人々が一同に集まる祭りの夜です。

文 千種清美

